

# 4000年前の大木戸

今回の調査区の上にあたる台地（第13地点）には、かつて<sup>たてあなじゆうきよ</sup>竪穴住居の建ち並ぶ集落があり、そこから下る斜面（15・16次）には、木の實を保存した<sup>ちよぞうけつ</sup>貯蔵穴が設けられていました。

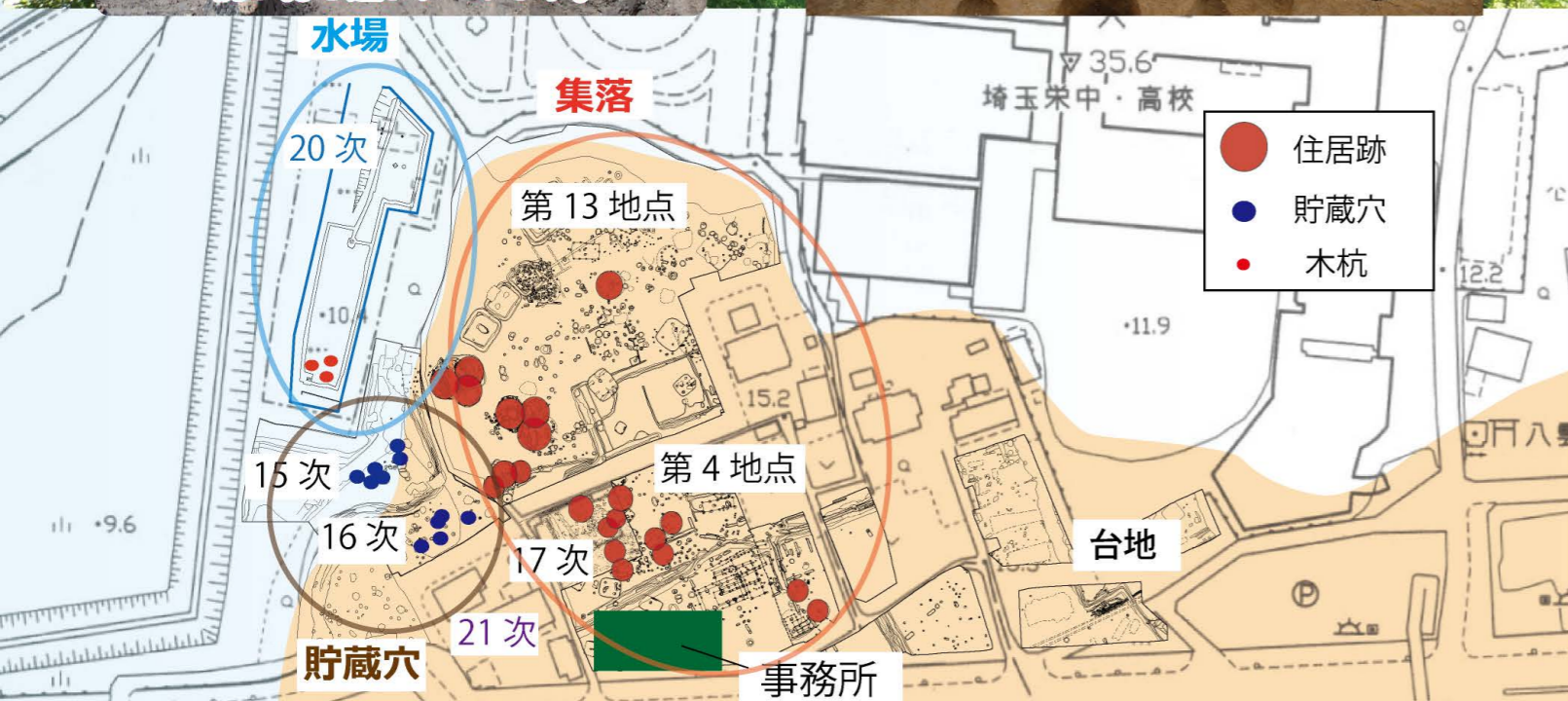
今回の調査では、打ち込まれた<sup>くい</sup>杭や作りかけの道具など、水辺での作業を想像させる跡や遺物が出土しました。4000年前に大木戸遺跡で暮らしした人々は、台地の上に住居を建て、集落のまわりを食料の貯蔵や作業の場として使っていたようです。



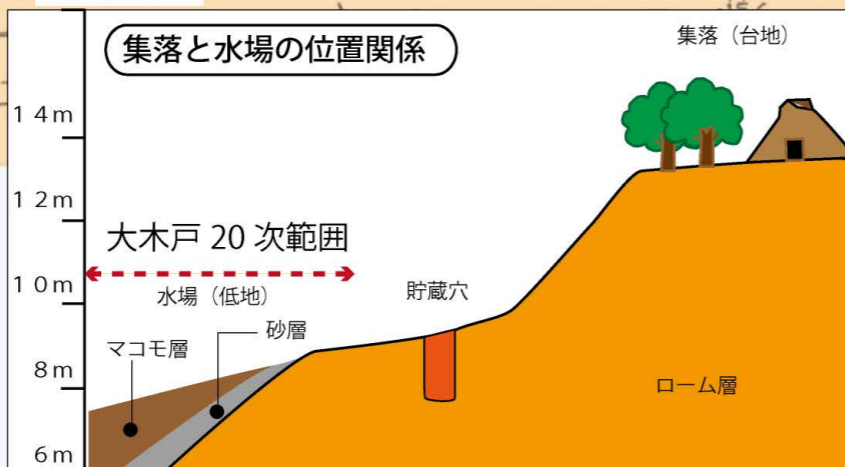
杭が打ち込まれています。



柱の穴がたくさんあるのが特徴です。



深さは1mを超えます。



## 水辺の暮らしと低地に残された宝物

さいたま市

# 大木戸遺跡第20次

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、大宮西部特定土地区画整理事業に先立ち、大木戸遺跡の発掘調査を行っています。今回の調査は台地から谷へと下る部分が対象です。

調査の結果、約4000年前に住んだ縄文人の水辺での暮らしぶりが明らかになりました。<sup>うるし</sup>漆が塗られた装飾品や<sup>おのえ</sup>斧の柄など、低地ならではの貴重な品物が出土しました。

← 縄文時代後期の飾り弓が出土しました！



# キッチン大木戸

煮炊きなどに使われる土器や、マツリに用いたと考えられる漆器などが見つかってます。



舟形木製品

くりぬかれて作られています。



深鉢形土器

煮炊きをするナベです。



注口土器

急須の形をした土器。  
注ぎ口は取れています。



石棒・石皿

石棒は男性を象徴する道具（上）。石皿は木の实をすりつぶす道具です（下右）。女性を象徴するとの考え方もあります。



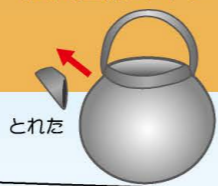
漆器

底の部分が残っています。

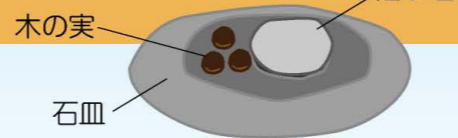
土器煮炊きのイメージ



注口土器のイメージ



石皿のイメージ



調査区全景図

- 装飾品
- 調理用具・食器
- 石斧・弓の未製品
- 丸木舟

# 大木戸遺跡遺物発見MAP

「低地」の遺跡からは、豊富な水によって守られた木製の道具などが出土します。大木戸遺跡では、木で作られた容器や斧の柄、漆が塗られた櫛や耳飾りなど台地上の遺跡では見られない遺物が出土しました。また、石棒やヒスイ製の垂飾りなどマツリに関わる遺物も発見されました。

漆の赤、ヒスイの緑など、4000年の時を超えて縄文人たちの目に映った色が、今、鮮やかに蘇りました。



垂飾り

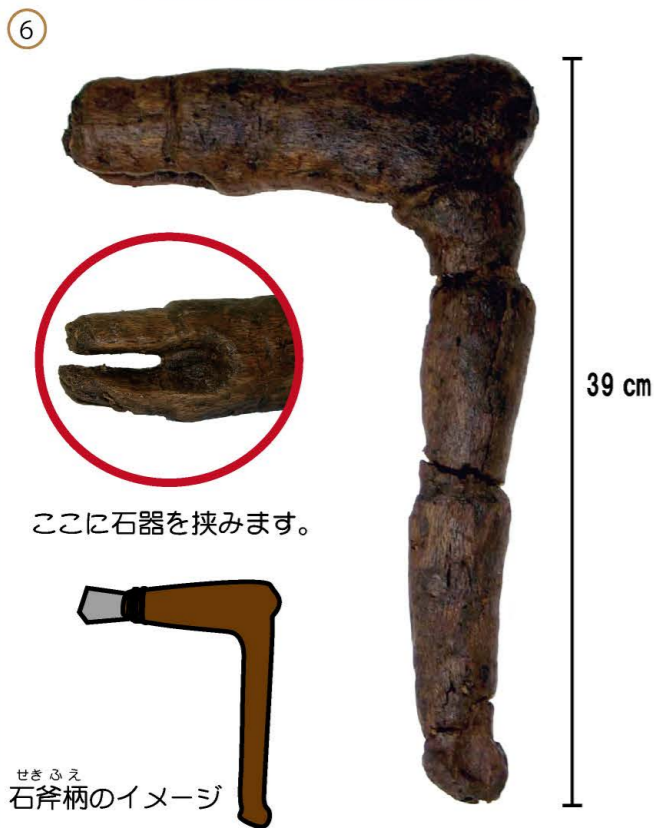
ヒスイ製の垂飾りです。



耳飾り

両端が窪んだ柱状の耳飾り。土製の物が一般的で、木製は稀少です。

# 石斧柄の完成品！



39 cm

ここに石器を挟みます。

石斧柄のイメージ

一般的な石斧よりも小型です。実用ではなく、マツリなどに使われたのかもしれませんが。

# アトリエ大木戸

製作途中の斧の柄や丸木弓が見つかっています。



石斧柄

装着するところは未完成です。



丸木弓

粗く削った作りかけの弓です。



丸木舟

舟の後ろの部分です。側面はなくなっています。

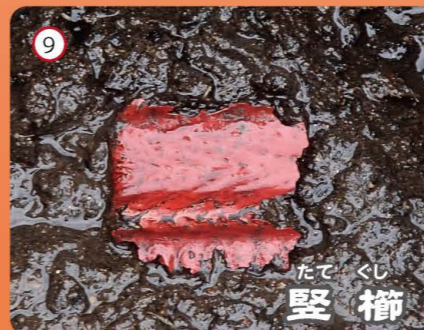
丸木舟のイメージ



# アクセサリー大木戸

漆の塗られた耳飾りや櫛、ヒスイ製の首飾りが見つかっています。

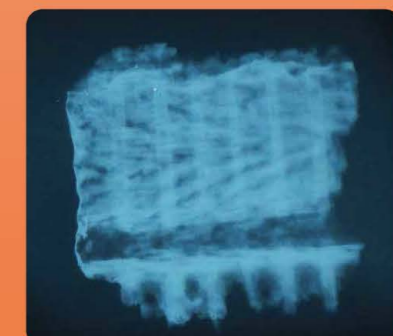
櫛のイメージ



櫛

歯に横木をわたし、木くずなどを詰め、漆を塗って作られています。

X線で写真を撮ると？



網目の模様や歯が並んでいた様子が分かります。